

情報科

主任：香川 裕之

(1) 今年度の目標

- ①情報や情報技術を活用するための知識と技能を修得する。
- ②情報に関する科学的な見方や考え方を養う。
- ③社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解する。
- ④情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育む。

(2) 主な取り組みの計画

- ①『情報化の進展が生活や社会に及ぼす影響を認識させる』ことにより、情報社会に参画する態度を育む。
 - ア 情報社会における問題点とその対策について授業で取り扱う。
 - イ 情報モラルに関する副教材を持たせ、授業で扱う。必要な時に知識や技能を身につけるよりどころとするように指導する。
- ②『コミュニケーションについての学習』を通して、情報の科学的な理解を図り、コミュニケーション力向上に役立てる。
 - ア コンピュータやネットワークのしくみについて学習する。
 - イ プレゼンテーションの方法やスライド作成における注意点を学習し、スライドを活用して全員がプレゼンテーションを実施する。
- ③『コンピュータを用いた実習（問題解決、情報収集、情報の整理と管理）』に取り組ませることにより、情報活用の実践力を育成する。
 - ア コンピュータを用いた問題解決を学習する中で、表計算ソフトを利用して計算やグラフ作成ができるようにする。
 - イ 問題解決の演習問題として、遊園地でのアトラクションの選び方の必修課題と生活時間の見直しや釣り銭問題などの選択課題に取り組む。
 - ウ カテゴリ検索やキーワード複合条件検索の技術を習得し、インターネットから効果的に情報収集ができるようにする。

(3) 授業アンケートの結果と分析

昨年よりコンピュータを使う実習の時間を少なくしたため、コンピュータを使いたいという希望がでていようである。80%位の生徒がまじめに授業に参加している。また、75%の生徒は、満足しているが25%の残りの生徒は難しいと感じるものと、物足りないと感じるものに分かれている。

(4) 今年度の成果と課題

今年度は問題解決能力の向上のため、ブレインストーミングや問題解決で多くの実習に取り組んだ。県のインターネットの速度のためか、全員が一斉に調べ学習をすることができず、実習に時間がかかる。原因を究明してもらおうと同時に、速度が遅くても対応できる実習を工夫していく。来年度はSG情報も含めて、さらに実習内容を拡充させていく。